

西海ブロック水産業情報

NO. 88 (平成27年1月～3月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>フトモズク養殖:3月現在、育成中。生育は順調で4月より収穫開始予定。</p> <p>○有明海 ノリ養殖:12月28～31日に冷凍出荷し、1月3日から摘採が開始、1月中旬までは生産は概ね順調であった。1月20日から植物プランクトンの一時的な増加による栄養塩の減少により、1月末まで軽度の色落ちが発生した。その後、2月初めにノリの色調は回復した。しかし、2月17日以降、植物プランクトンが急増し、栄養塩の急激な減少、それに伴う色落ちが河口域を除くほぼ全域で発生、2月下旬以降順次網揚げが行われた。三期作は3月13日から網が張り込まれ、4月上旬までに1～2回摘採した。今漁期の生産枚数は14.3億枚(過去5年比113%)、生産金額170.6億円(過去5年比136%)、平均単価11.92円/枚(過去5年比+2.03円/枚)であった。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・付着数は少ない。殻高は小さめながら1月以降身入りは良好。 ・全漁協(支所)で自家採苗を実施し、8月中旬に採苗適期となり、ほぼ十分な採苗数を確保。 【栽培漁業】 ・クルマエビ、ヨシエビならびにガザミの中間育成を実施。 ・「かぐや方式」によるアサリ増殖試験を実施。 【資源管理】 ・漁協青壮年協議会が抱卵ガザミの再放流を実施。</p>	<p>○有明 ・マガキ養殖 平成26年度は、16経営体が22基の筏を用いて生産を行い、昨年度(約50トン)を上回る約70トンの収量となった。</p> <p>・ノリ養殖 採苗は10月15日(一部16日)から開始された。平成4年以來の小潮採苗となったが、採苗は比較的順調に進み、18日にはほぼ終了した。 秋芽網期は、育苗期に、一部の漁場で、赤潮により栄養塩濃度が低下し、ノリの色調不良が発生した。摘採は11月16日頃から全漁場で本格化した。色落ちは11月下旬に発生し11月末までには東部漁場を除く全域に拡大した。秋芽網期は12月22日に終了し、生産状況は、生産枚数5.3億枚(前年比86%)、生産金額60.9億円(前年比89%)となった。 冷凍網期は、12月29日(一部 1月14、28日)から始まり、冷凍戻りは全体的に良好であった。摘採は1月9日頃から全漁場で本格化した。色落ちは1月上旬に発生し、東部漁場を除く全域へと拡大した。2月中旬以降は東部漁場の沖合でも色落ちが発生した。冷凍網期は4月12日に終了し、生産状況は、生産枚数13.7億枚(前年比121%)、生産金額163.9億円(前年比138%)となり、平成26年度漁期の総生産金額は224.8億円(前年比120%)で、12年連続の日本一となった。</p> <p>○玄海 ・アカウニ:2月上旬から3月末までに10mmサイズ種苗17.5万個配布済み。 ・クロアワビ: 平成25年度産 2月上旬から3月末までに放流用種苗(30mmサイズ)1.6万個配布済み。 平成26年度産 3月末時点で殻長6～9mm約30万個体飼育中。 ・カサゴ:1月中旬から生産を開始し、3月末時点で全長約20mm約30万尾飼育中。 ・アゲマキ:1月下旬に殻長7～8mm43.2万個を配布、放流。</p>		<p>2月: 低水温による生理障害発生(シマアジ、カンパチ、マダイ幼魚) マダイに外部寄生虫(ベネデニア・セキイ)による魚病発生</p> <p>3月:低水温による大量死発生(カンパチ)</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
	<p>県内特産柑橘類の有効利用による海産養殖魚の品質向上技術開発 平成26年10月7日から12月15日の期間中、陸上水槽において、カンパチに日向夏残渣添加割合を変えた配合飼料(試験区4区:日向夏残渣添加配合飼料無添加区(対照区)、1%添加区、2%添加区、5%添加区)を給餌し、試験飼育を行い、品質向上効果を検討した。 試験飼育後即殺して24時間ごとに96時間まで色差計により普通筋のハンター白色度を測定した結果、試験区間における有意な差は見られなかったが、血筋筋のa*/b*比では、対照区よりも1%、5%添加区の方が良く、色の劣化を抑制することが分かった。加えて、飼育直後に採取した血液の血漿リゾチーム活性および血液性状から判断し、1%添加区が最も効果的であると考えられた。</p>		<p>3月の聞き取りでヒトエグサ、イトモズク(いずれも養殖)の収穫が遅れている、オキナワモズク(養殖)の種網から芽出しが1ヶ月ほど遅れているとの情報があった。</p>